

3 積雪地帯におけるレタスのセル成型苗秋定植及び越冬セル苗早春定植栽培

ねらいと成果

県北部地域は典型的な日本海型気候であり、晩秋にはしぐれ、冬期間には相当量の積雪もある。このような気象条件下で、レタスを早春には種し初夏に収穫する作型は、育苗期が低温のためビニルハウスや加温設備が不可欠である。さらに、育苗管理に細心の注意を要し、定植期が融雪期にあたるためほ場準備が難しいなどの問題がある。

そこで、晩秋定植栽培とセル成型苗を冬期間積雪下で越冬保存、融雪直後に定植し生育させることにより春は種、春定植栽培より早期に収穫する作型を検討した。

その結果、晩秋に定植したレタスのセル成型苗およびトレイごと露地に保存した苗は、冬期間積雪下で欠株なく越冬する。越冬保存苗を融雪後定植してもその後の生育は順調で、春は種栽培より収穫時期が早くなり、積雪地帯におけるレタスの春の早期収穫が可能である。

内 容

秋定植栽培は、セル成型苗のは種日を9月下旬から10月上旬とし、11月中下旬に露地ほ場に定植した。秋定植前のセル成型苗は、は種日が遅くなるほど育苗期間中の気温が低下し生育量が小さくなるため10月中旬までには種する必要がある。春融雪後の欠株は認められず、その後の生育は順調で収穫始期は5

月1日となった(図)。

越冬セル成型苗早春定植栽培は、秋定植と同時期には種、育苗したセル成型苗に不織布(光透過率90%以上)をべたがけし、冬期間露地積雪下で保存し、翌年3月中旬の融雪後に定植した。越冬期間の平均気温並びに積雪量は平年並みであり、セル成型苗保存場所の最深積雪は約40cmであった。春融雪後の欠株は1.5%程度であった。越冬保存セル成型苗早春定植栽培の収穫始期は5月17日からとなった(図)。

慣行の春は種、春定植栽培の収穫始期は6月4日であり、秋定植および越冬セル成型苗春定植栽培とも、慣行栽培より早期に収穫が可能であり、これらの作型を組み合わせると連続して収穫が可能である。収穫したレタスの球重、品質は、いずれのは種、定植期とも慣行とほぼ同等であり異常球の発生は認められなかった(表)。

普及上の注意事項

標高が高く降雪時期が早い地域でのセル成型苗秋定植栽培は、は種、定植期をやや早くし苗を完全に活着させておく。

セル成型苗を越冬保存する場所は、湿害を受けないよう排水対策を確実に行う。

マルチは天候の良い晩秋に敷設しておき、融雪後速やかに定植できるようにしておく。

福嶋 昭(北部農技・農業部)

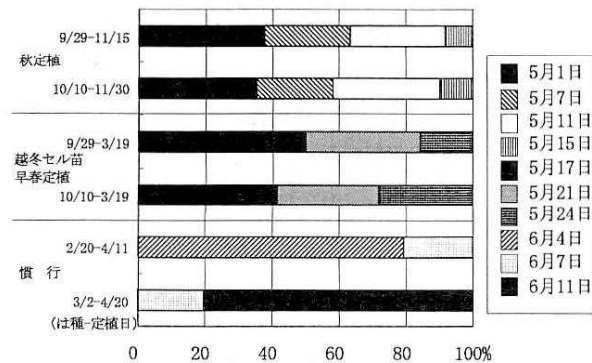


表 レタスののは種-定植日の違いが収穫量等に及ぼす影響

作型 (は種日-定植日)	総重量 (g)	外葉数 (枚)	球重 (g)	球高/球径	葉長 (cm)	葉幅 (cm)	芯高 (cm)	葉度	中肋	葉色
秋定植 (9/29-11/15)	765.8	14.9	452.8	0.95	26.6	23.2	3.1	3.7	0.2	38.8
秋定植 (10/10-11/30)	601.4	12.4	387.5	0.92	25.2	22.4	2.6	3.0	0.1	38.7
越冬セル苗 (9/29-3/19)	848.4	11.3	422.4	0.99	28.3	32.7	4.1	3.1	0.3	37.6
早春定植 (10/10-3/19)	842.0	11.6	421.0	0.96	28.4	30.8	3.4	3.0	0.1	40.3
慣行 (2/20-4/11)	767.7	8.7	455.1	0.95	29.1	30.5	6.0	3.0	1.1	42.5
慣行 (3/2-4/20)	774.3	8.4	405.7	0.97	29.0	28.3	5.8	3.2	1.2	39.4

施肥量: N:P₂O₅:K₂O=30:28:23kg/10a
 秋定植調査日: 2001年5月1日、越冬苗調査日: 5/17日
 春定植調査日: 4/11定植; 6月4日、4/20定植; 6月7日
 葉度: 0:軟らかい、3:適当、5:堅い、中肋: 0:異常なし~2:変形
 葉色: ミノルタ葉緑率計SPAD-502の値